令和3年度第5回定例
松本市教育委員会会議録

松本市教育委員会

令和3年度第5回定例松本市教育委員会会議録

令和3年度第5回定例松本市教育委員会が令和3年8月30日午後4時00分オンラインで開催された。

令和3年8月30日(月)

議 事 日 程

令和3年8月30日午後4時00分開議

第1 開 会

第2 教育長挨拶

第3 議 事

[議案]

第1号 松本市指定文化財の指定に係る諮問について【非公開】

第2号 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市立小中学校における対応について

[報告]

第1号 国宝松本城天守耐震対策専門委員会委員等の委嘱について

第2号 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対応について

[周知]

1 令和3年度企画展「ありがとう中山考古館」の開催について

[その他]

教 育 長 伊 佐 治 裕 子

〔出席委員〕

教育長職務代理者	小 柳 廣 幸
教 育 委 員	福 島 智 子
”	橋 本 要 人
”	佐 藤 佳 子

〔出席職員〕

教 育 部 長	藤 森 誠
教 育 政 策 課 長	赤 羽 志 穂
学 校 教 育 課 長	塚 田 雅 宏
学校支援センター長	高 野 毅
文 化 財 課 長	竹 原 学
城郭整備担当課長	竹 内 靖 長
学校支援センター主任指導主事	牧 野 圭 介

〔事務局〕

教育政策課	
教育政策担当係長	三 澤 良 彦
” 係長	小 澤 弥 生

開会宣言 午後4時00分

伊佐治教育長は令和3年度第5回定例松本市教育委員会の開会を宣言した。

教育長 令和3年度第5回定例松本市教育委員会を開催いたします。オンラインでの開催は初めてということになりますでしょうか。ウィズコロナの時代のこの新しい会議のスタイルということで今日は会議を開催したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、令和2年度第11回の定例教育委員会の会議録については、皆さんに事前に送付させていただいたと思いますが、ご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 はい。ありがとうございます。

それでは直ちに公開していきたいと思います。

署名委員の指名

教育長 本日の会議録署名委員ですが佐藤委員、小柳委員です。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤委員 はい、よろしくお願いいたします。

議案審議

教育長 本日の議題ですけれども、新型コロナウイルスの感染症の拡大に伴いまして、当初予定していたものに議案1件、報告1件を追加しまして、本日の案件は議案が2件、報告が2件、周知が1件となります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議案第1号については、非公開ということで提案をさせていただいております。地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第14条第7号教育委員会の会議は公開する。ただし、人事に関する事件、その他の事件について教育長または委員の発議により出席者の3分の2以上の多数で議決したときは、これを公開しないことができるとの規定に基づき、議案第1号を非公開にすることについてお伺いします。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 はい。ありがとうございます。

それでは、議案第1号は非公開とします。傍聴の方もいらっしゃいますので

最後に協議をすることといたします。なお、協議の内容については、公開できる時期になりましたら、会議録を公開したいと思います。

それから、本日の審議順ですけれども、先に報告第1号、そして周知の1をご審議いただきまして、その後、追加の2件は関連がありますので報告第2号、そして議案第2号の順で進めたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

< 報告第1号 > 国宝松本城天守耐震対策専門委員会委員等の委嘱について

文化財課長 報告第1号「国宝松本城天守耐震対策専門委員会委員等の委嘱について」説明
教育長 はい。ただいまの説明に対してご質問ありますでしょうか。

いよいよ耐震工事が令和8年度からを予定しているということで、壮大な事業になります。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告1号につきましては、報告を受けたことといたします。

< 周知事項1 > 令和3年度企画展「ありがとう中山考古館」の開催について

教育長 「令和3年度企画展「ありがとう中山考古館」の開催について」説明
文書館の小松専門員のおじい様が初代館長だったということですよ。

文化財課長 はい、そうです。

小柳委員 質問です。11日から14日に開催期日が変わりましたが、このことはどのようにお知らせをしますか。

文化財課長 そうですね。本日、急な決定になったものですから、ここに挙げた周知手段の中で迅速に取れる手段をもって周知を図りたいと考えております。現在、文化財課で周知方法について検討しておりますけれども、フェイスブックやホームページといった機動力のある手段を中心に考えてまいりたいと思っております。

小柳委員 4の周知方法を活用するというのでいいですか。

文化財課長 はい、そうです。

小柳委員 分かりました。

教育長 よろしいでしょうか。

< 報告第2号 > 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対応について

教育長 それでは続きまして報告第2号です。この案件については本日午前中にあり
ました松本市の新型コロナウイルス感染症対策本部会議に伴って急きょ追加をさせ
ていただいたものです。資料については画面共有をさせていただいております
ので、ご覧ください。

教育政策課長 報告第2号「新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対応について」説
明

教育長 ご質問ありますでしょうか。

橋本委員 この資料の中には、図書館について何も書かれていませんが、この文面から
推察するに、図書館は通常どおり開館ということですか。

教育政策課長 図書館につきましては、これまでどおり感染対策を徹底した上で開館する
ということにしております。

橋本委員 その点、疑義があるのですが、前回、市のこういった施設を閉鎖したときに、
図書館は原則として閉鎖で予約の貸出しだけに対応したと思いますけれども、
図書館の閲覧室だとかそういったところについては引き続き開放するというこ
とですか。

教育政策課長 はい。今回の方針といたしまして、基本的に観光客を中心として流入を防ぐ
というところで対策を立てておりまして、図書館であるとか公民館であるとか
市民対象と思われるところは基本的にこれまでどおり受入れとするということ
です。

橋本委員 甘くないですか。前回のコロナ対応のときと同等の対応を取らないといけな
いような状況だと思います。県の警戒レベルは最高位にあるわけで、だからこ
そ今日も我々はウェブで参加しているわけですが、市民が対象のところ
はいいですといっても市内で感染が広がっているわけですから、私はその点に
ついては疑義があります。

教育長 このことなんですけれども、午前中の対策本部会議で県が一定の案を示して
いまして、その中で県有施設の休止等の情報が入ってきております。例えば美
術館、博物館は休館。それからホール、貸館等は館の主催事業は中止ですが、
原則は休止ということ。そして県立図書館は、貸出しのみ実施ということ
になっています。ですので、県立図書館も閲覧コーナーがあると思うんですけ
れども、貸出しというのは、本を選んだりする閲覧もセットということなので、
これは確認をしてみないといけないんですが、これに従って図書館については

市民の方が本を借りにくるのはオーケーということで話をしております。

橋本委員 県がどういう対応を取ろうがそれは自由ですけれども、松本市教育委員会として、少なくとも自分の管理する施設でどう考えるかというきちんとした考え方が必要ではないですか。

教育長 はい。おっしゃるとおりだと思いますが、公民館についても通常はリスクの少ない活動については可能ということで、日常生活の中で必要な範囲は感染対策を強化した上で可能としていますので、図書館についてもご懸念の点というのは、例えば子どもたちが児童館、児童センターに行って遊ぶ自由利用は禁止となっていますので、図書館は、閲覧室の利用などを制限するという、貸出しについては止めない方向でいくことはよろしいかと思いますが、それについてほかの委員さんもお意見いただければと思います。

いかがでしょうか。博物館は全体を休止ということになります

佐藤委員 すみません、一つお伺いしたいんですが、Mウイングもそうだったと思いますが、青少年健全育成事業で会場とされている場所等は、引き続き開放ということでしょうか。

教育長 今、佐藤委員がおっしゃっているのは、青少年の居場所のことでしょうか。

佐藤委員 すみません、正式名称を失念してしまいましたが、放課後など学習等のために高校生などが集まっている場所に関してです。

教育長 はい、事務局で確認をさせていただいてよろしいですか。

佐藤委員 お願いいたします。

教育長 図書館の閲覧ですとか学習コーナーに準じたほうがよろしいという、そういうことですよ。

佐藤委員 そうですね。例えば、Mウイングも2階等で学習が可能になっているかと思うのですが、そういうところはこの期間に関しては閉じたほうがいいのではないかと考えています。それに類して図書館も閲覧の場所などももし密になるような場になるとすれば、同様な扱いになってくるかなと思いますが、それが市内に今現在何か所あって、対応をどうしていくかということを確認させていただきたいです。

教育長 はい。分かりました。

それは同時並行で調べます。

橋本委員 一つ申しあげると、私は警戒レベルを以前から信用してないのですけれども、

今回の危機管理の対応の前提は何ですか。県外からお盆等で帰ってきて、それから感染したということで県外からのお客様だけをシャットアウトするような対応を取るというのが今回決められた話ですか。そうではないのではないですか。もう、市内で感染が拡大していて、どこでどういう形で感染するか分からない。それほどデルタ株の脅威があるんだということを前提に対応をどうするかということを議論しないと、今ご説明があった観光客等をシャットアウトするためだけの対応は、前提条件がおかしいと思います。だから、教育委員会所管のところの対応をどうするかといったら、前回と同等あるいはむしろそれ以上の対応を取らないといけない状況ではないですか。以上です。

小柳委員 阿部知事からは、9月12日までは命を守る期間として嚴重にやっていくというお話もありました。今回、観光客などの不特定多数が集まる施設への対応は、期間としては遅過ぎで、もっと前に取り組むべきだったのではないかと考えています。しかし、やや遅くはなりましたが、これからの取組み内容をはっきりさせてこのとおりでやるということではないのでしょうか。この取組みで12日までやってはどうかと思っております。

教育長 福島委員と佐藤委員はいかがでしょうか。先ほどの情報は分かりましたか。

教育政策課長 先ほどの佐藤委員からご質問がありました青少年の居場所ですけれども、まず場所については文化施設が3つ、Mウイング、あがたの森、それから、あがたの児童センターだそうです。それから体育施設が中央体育館、南部体育館、それから島立体育館ということで、現在は利用者名簿で管理していて、特に止めるということはしていないそうです。この期間中も止めることは考えていないということです。

佐藤委員 先ほどおっしゃった名簿で管理というのは、そういった文化施設における学習などが自由にできるような場も名簿で管理されているということですか。

教育政策課長 はい。そのとおりでございます。

佐藤委員 承知しました。ということは私のこれまでの理解が違ったので。ありがとうございます。

教育長 感染が出た場合に追えるようにということですかね。

佐藤委員 分かりました。

教育長 福島委員、何かありますでしょうか。

福島委員 一律に閉じるということについては、どちらとも今の時点で判断がつかない

ですけれども、リスクの高いものはいくつかあるわけで、そうしたものがきちんと低減できるということがほとんど確約できる状態であれば稼働するというのもいいかと思いますが、もしそれが難しいということであれば閉めるということも選択肢の1つとしてあるのではないかと思います。

教育長 図書館については、確かに先ほどおっしゃったように閲覧コーナー、学習コーナーになりますね。そのコーナーに、例えば小さい子どもたちがいて、わいわい顔を寄せ合っているような場面があればそれは止めたほうがいいということになると思うのですが、社会人席ですとか貸出禁止の資料を机でご覧いただくということについては貸出しに伴って行う最低限の行動ということで制限する必要はないのではないかと思います。ただ、閲覧コーナーも、例えば3階の職員の目が届かない学習コーナーといったところは閉めていく必要があるかなというふうに思います。目の届かないところで子どもたちが密になってしまったりしてリスクの高い状況が生まれてしまうという可能性はあると思うんですけれども、貸出しは止めないという方向でもよろしいのではないかと思います。いかがでしょうか。

橋本委員は貸出しも止めたほうがいいというご意見ですよ。

橋本委員 いえ、今のコロナの危機感をどういうふうに考えるか、受動的にコロナ対策をやるということでもいいのかということだと思います。ある種無責任ですよ。県がこう言っているから県の対応に合わせてとか、国がこう言っているからこういう対応でいいとか。それだったら市で意志決定する必要はなくて、上からの指示を受けて、やるだけじゃないですか。

自分たちで、自分たちの周りの危機をどう感じて、それに対して県や国の対応が不十分だよということをも自分たちで防御的にやらないといけないと思います。私は、今の状態は、前回よりも厳しいと思っています。だから、そのときに取った対応と同等レベルの対応を取らないといけない。ただし、前回取った対応で学校を全校一斉休業にしたことによる課題がいろいろ分かりましたよね。そういうことに対する反省を踏まえて対応を修正するというのだったら分かりませんが、そうではないですよ。そこがきめ細かくないなという気がします。

教育長 分かりました。橋本委員や小柳委員がおっしゃるとおり、県外からの観光客を止めるということに対しては県がはっきりしたメッセージを送ってくれなか

ったこともあって、私は歯がゆい思いをしておりました。ですので、この3日からの12日間限定でということについては少し遅かったのではないかということも感じていることは事実です。

ただ、一方で先ほど学校の対応のことがありましたが、市民がリスクを避けて続けられる最低限の学びを続けるために必要な状況を、必要以上に制限することは避けなければいけないと私は思います。ですので、図書館における貸出しと貸出しに伴う最低限の閲覧というのは継続してもいいのではないかと思います。

博物館については、本部会議の決定を受けて休館を徹底することを報告したわけですが、市立図書館は教育委員会の所管の施設になりますので、図書館の対応については今、皆さんにご協議をいただいて、まさにこの教育委員会が検討して、これについて決定をしていくということによろしいかと思えます。ですので、それも含めて今後、図書館はどういう対応をするかということでご意見をいただければと思います。

小柳委員 繰り返しになりますが、今、教育長から話があったように9月3日から12日という県の対応が遅いということには同感です。でも、今回の対策は観光客への対応となるわけで、私は遅いけれどこれでとりあえずやるべきだと思います。

教育長 これで行うべきということは市の対策本部会議で決まったことです。

小柳委員 それに合わせてやるということで私はいいと思います。

教育長 このとおり対策を実施しますが、今、図書館については、資料の(1)のウになります。前提としては一行目の感染防止対策を徹底した上で開館とします。ただしリスクがあることは自粛を要請します。ですので、貸出しは止めない。ただどリスクのある、先ほどお話ししたような閲覧室で無秩序の状態になるようなところは自粛をしていただくということで閉めてもいいのではないかということこの会議でのご意見を受けて、図書館については、教育委員会の施設なので、今のこのご協議をいただく中で決定をしていいのではないかということことです。

小柳委員 無秩序な状態になると閉館するというのでいいですか。

教育長 閲覧コーナーについては利用を自粛していただくということで、例えば3階の職員がいないような閲覧室、学習コーナーについては閉めるということことです。

小柳委員 館内の部分的な閉鎖も導入していくということですね。

教育長 はい。
 いかがでしょうか。

橋本委員 よろしいですか。

教育長 はい、どうぞ。

橋本委員 密になるようなところ、密にならないようなところ、対策が取れるところ、対策が取れないところっていうことは不明確ですよ。こういう公共施設をどういうふうに市民に対して提供し、どういうふうに閉鎖するかというのは、それ自体が非常にメッセージ性を帯びていると思います。これらを基本閉鎖するということのメッセージは、今のコロナの危機に対して市自体も非常に強いメッセージになると思います。それが今、国や県のレベルで、県はどうか分かりませんが、国のレベルは少なくともメッセージ性がないので、みんな自粛に慣れてしまって、どんなに緊急事態宣言を出しても、いつまでたっても人流が止まらない状況になっているわけですよ。

 だから、そういうメッセージを発するか発しないかという問題だと思います。今日のこの会議だって、初めてWebで教育委員会をやっているというこのメッセージは非常に大きいですよ。だから、我々が集まること自体、危機感を感じたからWebでやっているわけで、そういう状況の中で公民館は対策取れますから開館しますよと。教育委員会だってこれだけ対策とってやっているわけですから。というふうに私は思いますけどね。

教育長 はい。ご意見を伺いましたが、先ほどもお話ししましたように、大人であつてもリスクの少ない最低限の学びは継続ができるようにしていくことは必要だと思います。ですので、公民館についても、例えば合唱ですとか、それから調理実習をしてみんなで食べる、そういうことは当然止めるわけですが、通常の会議、マスクをして通常に話ができる最低限の会議。先ほど市の事業等もできる限り延期をしてもらおうということがありましたけれども、主催の事業は延期するということを原則としつつも最低限の会議についてはオンラインとかを併用しながら館を使っただけことは止めない。そしてそれに照らし合わせますと、図書館についても一番根幹となる貸出しは止めないということによるのかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

橋本委員 貸出しを止めるとは言っていませんよ。前回は止めたのは図書館に集まるのを止めただけで、貸出しは続けてくださいってお願いしたわけだから、続けら

れるのは続けるというようにして、きめ細かくやることによってむしろ家庭にいる時間が長くなったら本に対するニーズは高まるじゃないですか。閉鎖期間中は、逆に貸出しが増えたわけですよ。だからそういうところはきちっと市民サービスをしないといけませんけれども、集まるような場を提供するということが自体は止めるべきじゃないですか。

教育長 橋本委員のおっしゃっている集まる場所というのは、先ほど申しあげた閲覧コーナーのことですか。

橋本委員 閲覧コーナーもそうですし、それから自習室だとか、以前も対策を取りませんでしたか。

教育長 ですので、それは止めるということを前提に貸出しと、それから先ほどのように貸出禁止の本を最低限閲覧するコーナーは止めないということによろしいのではないかと思いますよ。

橋本委員 前回の対応と何が違いますか。

教育長 前回は館を閉めたうえで、予約本の貸出しだけということだったと思います。今回は館自体を休館するということではなくて、学習室ですとか大きな閲覧コーナーを止める。そしてその上で最低限の本を、貸出禁止の本を見ていただくだけとか、そういう閲覧コーナーの机は開放したらいかがかということです。

橋本委員 公民館は前回と何が違いますか。

教育長 去年の4月のことをおっしゃっていると思いますが、去年の4月は公民館も全て閉めたと思います。一番厳しいときはですね。ですが、今回は最低限、例えばマスクをしてオンラインを併用しながらできる会議等で必要なものは貸出しをして利用できるようにするということだと思います。

佐藤委員 一つ、公民館のことで質問をさせていただきたいんですが、よろしいでしょうか。

教育長 はい、どうぞ。

佐藤委員 公民館関係は、安曇野市とか塩尻市とか近隣市では、新規の予約を止めているところが多くあるかと思います。今回、松本市の場合は新規の予約も止めずにしっかりと対策を取って動かしていくということでしょうか。

教育長 はい。そのとおりです。ただ、予約は取りますが、その活動については先ほどお話ししたように、リスクのある活動については止めていただく。それが大前提になっているかと思います。

佐藤委員 はい、承知しました。

それに関連してもう一つ質問ですが、コロナの感染拡大を恐れてキャンセルをされた団体があった場合に、使用料を既に払っている場合等の対応が以前もあったかと思うんですが、その点については今後も同じような対応ということになるのでしょうか。

教育長 今おっしゃったのは、例えば、貸館の中で事業を行う人がキャンセルした場合のキャンセル料ということですか。

佐藤委員 そうですね、例えば、Mウイングもそうですが、キャンセルをした場合にキャンセル料が発生すると思いますけれどもそれもないということですか。以前コロナを恐れてキャンセルをしたときにキャンセル料を取られたというような話を聞いたことがあるんですが、その点はいかがでしょう。

教育長 確認させていただいてよろしいですか。

佐藤委員 そうですね。もしそういうケースがあった場合、配慮があることが妥当かなと思います。

どこか近隣市の場合キャンセル料等はいただきません、あるいは利用料は全額返金しますということがホームページ等でうたわれていますが、同様の対応が取られるべきではないかなと考えています。

橋本委員 すみません。先ほどから教育長が、リスクがある場合はやめていただく、リスクがない場合はそのまま続けていただくとおっしゃっていますが、リスクがあるとか、ないとかという判断は誰がされますか。

教育長 公民館の資料はなかったですか。公民館が少し前に出した方針文は配ってないですか。

教育部長 ここにあります。

教育長 部長から話してもらえますか。

教育部長 はい、私からお答えいたします。公民館が8月20日付けで各地区公民館長宛てに通知を出しております。その中でリスクの高い事業として5点挙げてございます。1つが、長時間近距離で対面形式となるグループワーク。それから2つ目、近距離で一斉に大きな声で話。3つ目、近距離で行う合唱及び管楽器演奏。4つ目、近距離で活動する調理実習。5つ目、密集する運動や組み合ったり接触したりする運動。これについては感染リスクが高い事業ということで自粛をお願いしているものです。

教育長 これが8月20日付けで周知をして、利用者の方をお願いをしているという内容になります。

橋本委員 その基準で公民館、貸出しをそれぞれのところで判断するということですか。

教育部長 はい。

小柳委員 図書館についての話題ですが、図書館もスーパーと同じような感覚で考えたらどうかと思います。スーパーでは必要なものを短時間で買って帰るということと同じに考えて、買い物に来るお客さんと本を借りにくる利用者とは買うと借りるとの違いはありますが、図書館での滞留時間、つまり利用時間を短縮していただくとかの呼びかけをしたうえで、貸出しは行うという方向でいいと思います。

教育長 私としては、先ほどの公民館の中のリスクが高い活動の一つということになっている近距離で、長時間、対面で話をするような場面が閲覧室の場所によっては出てくるかと思います。基本的にはそういうところは利用を自粛する、あるいは部屋を閉められるところは閉めて、そして最低限の貸出し、それから貸出しに伴う本の閲覧コーナーについては通常どおりということで、小柳委員からありましたように、なるべく短時間の利用にしていっていただくというのを呼びかけをしながら通常の開館を続けるということによろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

 通常の開館とすると、先ほどお話がありましたようにメッセージ性に欠けるということになると思われましたので、今のような注意書きを行ったうえで、開館をしていくということでいかがでしょうか。

橋本委員 私は、先ほど申しあげたようにどういう厳しさを出すかということのほうが今は重要な局面だという認識があって、ちょっとでも利用を増やせるという形も重要かもしれませんが、それよりは前回と同様の厳しさ、対応を取ったほうがいいと判断します。

教育長 ということは、貸出しのみということですね。

橋本委員 はい、それも事前の予約のみです。

 前回よりも緩い対応を取る特別な理由があるのであれば分かりますけど、今、重要なのは前回取った対応と同じ対応でいいのではないかと思います。

教育長 ただそのときは公民館も閉館していたと思います。

橋本委員 公民館も閉館にすればいいのではないですか。

教育長 公民館は、閉館はせずに先ほどのようにリスクを避けた活動を行っていくということで、大人の学びを止めないということだと思いますが。

橋本委員 そこは見解の違いですよ。今はそこまでやらないといけない状況なのかということだと思います。そういう学びを確保することが重要だというご判断もあるし、それから、コロナ感染のためには対策をもっと厳しくしたほうがいいという判断もあると思います。その判断の違いだと思います。

先ほど申しあげたように、こういう公共施設をどう提供するかということのメッセージ性が人流に対する抑止力をどういうふう持っているのかということを考えるべきコロナの状況だと思っているんです。

教育長 分かりました。

それでは、博物館は休館となっていますので、公民館、それから図書館ということで分けてどのような対応を取るかについてはこの場で決を採りたいと思いますが、よろしいですか。

教育政策課長 先ほどの公民館のコロナ対策という理由で使用料をどうするかというご質問がございまして、Mウイング、中央公民館それから地区公民館ですけれども、コロナ対策という理由でキャンセルをした場合につきましては全額還付をしているということでございます。

佐藤委員 ありがとうございます。それがいつからというのは分かりませんよね。

教育政策課長 既にそういう還付は行っています。

佐藤委員 はい、ありがとうございます。承知しました。

教育長 公民館は、私の記憶では一番厳しかったとき、休館してたということでもよろしいですね。

教育部長 全部施設は休館でした。

教育長 そうですね。全施設休館でしたね。はい、分かりました。

それでは、今、申しあげたとおり公民館と図書館と決を採っていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

小柳委員 そのことだけの賛否ですか。それともこれ全体の賛否ですか。

教育長 いえ、これ全体は松本市の対策本部会議で決まったことですので、教育委員会所管の関係で、博物館はもう決定していますけれども、それ以外の公民館と図書館について、ここにあります(1)の2の感染防止対策を徹底した上で開館としますという以上の厳しさを教育委員会として決定をするかどうかという

ことです。

小柳委員　　あまり長くなってもいけません、大事なことなので、もう少し時間をとって議論したらどうかと思います。

教育長　　はい。というようなご意見もありますけれども、いかがでしょうか。今回、県に準じて取る対策は9月3日からとなっていますけれども、本来感染拡大を抑制していくということであれば、今、学校で取っている対策と同じように9月3日を待たずに対策を取っていくということが必要かと思います。ですので、図書館と公民館について教育委員会としてはこのように考えているということ、皆さんのご意見を聞いて、方針について決めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小柳委員　　仮に第6波が来たときにも同じようにしていかななくてはならないとは思いますが、図書館は、先ほど申しあげたように、利用時間を短縮したうえで開館を継続するということがよいのではないかと考えます。

教育長　　佐藤委員はいかがでしょう。

佐藤委員　　休館について、今回のこの案に基本的に賛成ですし、3階の学習室になっているような場所は閉じるということでの対応は妥当だと思います。公民館に関しても、他の市町村に比べて対応が少し緩いのではないかなという感覚を当初から持っています。ただ、一方で学びを止めないというその理由も理解はできますので、今回、すでに団体さんが自主的にキャンセルをされているところもあると思いますし、しっかりとした感染対策、またきちんと後が追えるような名前等の確認、管理などが徹底されているのであれば今回のこの対策に対して賛成です。

教育長　　橋本委員、改めてお願いします。

橋本委員　　私は、そもそも市の対策が甘い。コロナに対する理解が不十分だと思います。でも、先ほど小柳委員がおっしゃったように先に送るとい話になると、今すぐにでもできることは不十分でもすぐにやったほうがいいので、決を採ってでもやれることはやったほうがいいと思います。でもそれは不十分で、結局本人たちの意識に任せるみたいな形になると思います。そういう意味ではほかの市町村と比べてというお話もありましたけれどもそのとおりだと思います。ほかの市町村より松本市は人口密度が高いわけですから、その対策が甘いということ、これを今回しっかり明示しないといけないし、教育委員会から逆に市長部局に

関して甘いというメッセージを出すべきだと思います。

教育長 分かりました。ありがとうございます。

それでは今のご意見を受けまして、公民館については、感染防止対策を徹底したうえで開館としまして、先ほど部長が申しあげたような活動については自粛をしてくださいということがさらに市民や利用者の皆さんに伝わるようにメッセージを発信していくことを改めて教育委員会から周知をするということ。

そして図書館については、市民の学びを止めないために、閉館はしないけれども最低限の貸出しと閲覧に絞ってということで、これも教育委員会としてのメッセージを出していきたいと思いますが、その案でよろしいでしょうか。

橋本委員 いいです。

教育長 よろしいですか。

佐藤委員 はい。

すみません、先ほど教育長がおっしゃった、例えば閲覧を最低限の閲覧にしていくということは、何か閲覧の時間を極力短くしてください、滞在時間は短めにとというような注意喚起のようなものをどこかに出したり、館の中に掲示したりするような対策は考えられてのことでしょうか。

教育長 はい。先ほどの地区公民館宛での通知に準じて図書館に合う形で掲示をして、お知らせをしていくことは必要だと思います。

佐藤委員 はい、ありがとうございます。

教育長 橋本委員、よろしいでしょうか。

橋本委員 何もしないよりはいいと思いますが、不十分だと思います。

教育長 分かりました。

それでは、直ちに教育委員会でこのような決定をしたということで、図書館の分館も含めて対策を取りたいと思います。ただ、分館については、閲覧コーナーは基本的にはないということになりますので、もし、そういうリスクがある場面としたら、小さい子どもさん向けの絵本コーナーのようなところで密な状態になったり、マスクを取って遊んだりとかということがあればそれは注意を促していくということになるかと思いますが、よろしいですか。

小柳委員 それ以外の点で質問を2点いいですか。資料の内容について。

1点目は、裏面のイの時間短縮、利用人数制限により対応する施設の中に日帰り入浴施設と書かれています。この日帰り入浴施設の飲食はなしということで

理解してよろしいですか。2点目は、(2)のイベントの対応についてということで、「日程変更できないものは、感染防止対策を徹底した上で実施することをお願いする」ありますが、この感染防止対策の徹底については何か主催者側から返答を求めるかどうかのこの2点について、分かる範囲で結構ですので教えてください。

教育長 これについては、確認をしてもらったほうがいいと思いますが。

日帰り入浴施設については文化観光部ですかね。そして、2点目のご質問に対しては所管の部に確認をしてお知らせをしたいと思います。

その前の議論に戻って、先ほどの図書館と公民館については教育委員会としての少し抑制をするというメッセージをつけたうえで最低限の活動、施設運営を行っていくということでメッセージを発信していきたいと思います。よろしくをお願いします。

橋本委員 実施日はいつですか。

市よりも早めるわけですね。

教育長 そうです。明日からということで可能な範囲で対策を取っていききたいと思います。

橋本委員 はい、結構です。

教育長 それでは、小柳委員からの質問については後ほど。

ほかにはありませんでしょうか。

橋本委員 いいですか。私自身も反省ですけど、市長部局でこういう対応をする前に松本城は所管が移ってしまったので我々で決められないのかもしれないかもしれませんが、もっと早い時点で臨時教育委員会をやるなりして、市の少なくとも教育委員会所管の施設について議論すべきだったという反省があります。それは、むしろ事務局のアンテナが高いわけですから事務局からそういうようなアクションを起こしてほしかったということです。

教育長 はい。おっしゃるとおりだと思います。

この対策本部会議が開かれるというような動きについては、ちょうど金曜日の夜ぐらいに情報が入ってきまして、週末にかかるということでその辺を躊躇したということと、それから具体的にどんな動きになるのかということが読めない部分があった。それは庁内での連絡が不十分だったという点もありますので、このことについては危機管理部に伝えるとともに次回、改善できるように

取り組んでいきたいと思います。

橋本委員 それからもう一ついいですか。

私、いつも非常に気になっているのは、教育委員会の所管から外れた施設は教育委員会で意見をいうチャンスはないですけど、先ほどから申しあげているように、市長部局のこれまでの対応が甘いと思っています。子どもたちとの関連でいうと、例えばあがたにあるサッカー場とか、スポーツ関連でいろいろな施設がありますよね。その様子を見たら、みんなが集ってわいわいやっていて、本当に密な状態です。そういったところの対応をどうするか。例えば、あがたのサッカー場のところは、日によっては市外ナンバーが半分ぐらい止まっています。そういったものが、インセンティブになって人が集まっているというようなことで、スポーツ関連施設なんかもどう考えるのかということでは教育委員会の派生的なところで、以前は教育委員会が所管のところですけど、心配でしょうがないというような状況です。そののところにに対してどういうふうに教育委員会として絡んでいくのかということについてお考えがあれば聞かせたいです。

教育長 はい。

今のお話伺ってしまして思い出したのが、5月の連休明けに感染が拡大した時期がありましたよね。そのときに、ちょうど市内の高校でクラスターが発生したということがありました。その後、市内の中学校の部活動を停止したということもありましたけれども、その際に市は学校における部活動というのは停止をしたんですが、その後市民の方ですとか学校長の中から子どもたちの活動というのは社会体育の活動。今、お話があったような市内のそれぞれのスポーツ施設、社会体育施設で活動を続けている子どもたちがいるけれども、こちら手だてをしないとなかなか対策がしきれないのではないかというご意見がありました。ですので、今回は市民の方からもそういった声が寄せられているということがありますので、改めて文化観光部のスポーツ推進課と連絡を取り合いまして、現在ホームページでもスポーツ施設の利用に当たってはという注意事項があるんですが、改めて学校も含めて社会体育での活動というのも抑制をしていただくようなお願いをしていきたいと思います。

橋本委員 それから、それだけでは不十分で、新聞を読んでいると今どこでクラスターが起きているかという塾です。塾というのは教育委員会の範疇なのかどうか

分かりませんが、塾での感染対策だとか、塾での対応というのは学校に対していろいろ注意事項を出しているのと、どういう関連性というか、どういうふうにお願いがしていけるのか、そこら辺の対応についてはどうお考えですか。

小柳委員 橋本委員のご指摘のように、学校を終えた中学生、高校生の活動、学校を早く切り上げた放課後の小学生の生活の仕方を見ると、学校から移動した先で密が起こるといったようなことが起こっています。結局学校の外のところがきちんとしていないとなかなか難しいという気はしています。そういう点では、以前、橋本委員が取り上げられていたかと思うのですが、学校では感染症についての指導を一生懸命やるしかないのかなと。遠回りで、即効的ではないけれども、そういうことをしていけないといけないかなという気がしました。

教育長 確かに塾のことがいろいろな報道の中でそれも課題になっているということを目にしています。それを見た時に考えたことは、例えば学校の活動、学校からの子どもたちへのメッセージ、家庭へのメッセージの中で、学校以外の活動においてもこういったこういう場面ではリスクがあるので先ほどのような狭いところで子どもが密になって活動するということについては、家庭の中でも子どもたちもそういう活動を避けられるように家庭内教育といいますか、お願いしますというふうに語りかけるしか、難しいのではないかと思います。塾に関して教育委員会や公的な機関が塾の利用を控えてくださいということは営業妨害になってしまうということもあると思いますので、そのメッセージの発信の仕方はなかなか難しいなという感じはします。

橋本委員 塾の監督官庁はどこになりますか。

そこをまず整理する必要があると思います。その監督官庁がお願いをすることとはできると思いますよね。塾に対して、学校にはこういうことをお願いしているけど、それに準じたような対応をしっかりとお願いしますねという注意の呼びかけは必要だと思います。

佐藤委員 今、ネット上で簡単に調べた限りでは、塾はサービス産業なので経産省の所管です。

教育長 分かりました。経産省となると遠くなってしまうので、教育委員会からのメッセージということで塾に特定してはいますけど、子どもたちの日常生活の中でもこういうことは注意してくださいということは改めてメッセージを送っていくというようなことでいかがでしょうか。

橋本委員 それは必要だと思います。行政が縦割りをどういうふうに打破しながら、厳しいことまでは言えないですけども、学校と同じような、これに準じたような対応をぜひともお願いしますというようなことは、ケースによって情報を提供するという意味合いにおいて必要なところだと思っております。

教育長 分かりました。この案件について何かほかにご意見ございますか。

 よろしいですか。それでは、報告第2号は承認することとし、図書館と公民館についてはただいま決定した内容について、部長から各担当課長に伝えて、直ちに取れる対策を取っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

< 議案第2号 > 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市立小中学校における対応について
学校支援センター長 議案第2号「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市立小中学校における対応について」説明

教育長 この議案についてのポイントとしましては、7日までということで先日ご協議いただきましたものを先ほどの県全体の対応に合わせて9月12日まで延長したいということと、中学校においては公式大会の出場予定者などもありますので、先生の指導監督の下で最小限の活動は認めることとしたいという内容になっております。

 これについてご意見をお願いいたします。

橋本委員 小学校、中学校、それから小学校の中でも低学年と高学年、それぞれにおいてコロナに対する対応が違ってくるのではないかと思います。例えばオンライン授業一つ取ってみても、低学年は端末を配ったからといってなかなかオンラインができるとは言い切れないので、低学年はなるべく学校に来たほうがいいですよ。高学年はどのくらいできるのか判断が難しいですけども、中学校ぐらいになると自宅でもかなりオンラインで対応できる。それからここで短縮日程を取ると言っていますが、家庭に帰っても高学年か中学校ぐらいになればご家庭に誰もいらっしゃらなくても自分で対応できるということでしょう。しかし、低学年になると難しい。結局児童センターに行くとなっても児童センターは今閉鎖になっているということで、学校によって違うとは思いますが、低学年、高学年、中学校というようなもう少しきめ細かな対応にしたほうがいいのではないかと思います。学校はクラス単位で動くわけですからそこに接触はないとしても、少しでも集まりを少なくするためにはそういうきめ細か

な対応というのも考えないといけないと思います。

教育長

前回の臨時教育委員会のときにも、橋本委員から、放課後の健全育成事業についても学年ごとの利用率が違うのではないかとのご提案をいただいていたと思います。そのことについて、今こども育成課に放課後事業等実施箇所ごとに学年別の登録率について資料を作ってもらっています。登録率というのは、対象の子どもさんのうちの何人の方が利用のための登録をしているかということで、これを早いうちに情報共有をした上で、学年ごとにこういう措置を取ったときに、放課後にこういう影響があるというようなことについて話し合いをしていきたいと思っていますが、今日その資料は間に合っていないということがあります。

それから今のご提案の中で、オンラインについては、今日から短縮日課が始まっていますので、家庭に向けた通知、それから学校向けの通知の中では感染の不安を訴えて学校をお休みされる場合には欠席扱いとはせずに、出席停止扱いということになりますけれども、この場合に自宅でご自分で学習をしたいという場合には申し出ていただいて、できる限りオンライン授業などのICT機器を使った対応をするということをお願いをしていますので、その内容を今日からの運用の具合を見て方針等については決定していてもいいかと思っております。この点について、高野センター長何かあれば。

学校支援センター長 ICT活用については、全ての学校を把握しているわけではないですが、今のところそれほど申し出はない状態ではあります。ただ、これから数日の中で増えてくることも予測されますけれども、大量にオーダーが来ているという状態でもないというのが現状であります。

教育長

今の場合には個別に対応していくという状況になります。先ほどのように休校になった場合にどうするかということについて、今の休校の措置というのはどちらかというと感染拡大を防ぐために2日程度、2日から3日程度休校しているということで、休校している学校については感染が起きてしまったことへの対応を先生方が取っているものですから、なかなか授業への対応というところまで手が回ってないということもあると思います。ですが、今の短縮日課をするこの期間について、子どもさんとか家庭から自宅で学習をしたいという申し出があった場合には個々にその方の状況、ご家庭の状況にもよりますので、それぞれの状況に合わせた支援をして、ICTが活用できる内容を行っていくと

いうことを学校にお願いをしてあるという状況にあります。

そのことについていかがでしょうか。

佐藤委員 先ほどの教育長のご説明については承知いたしました。

それと関連することではあるのですが、前回接続テストがまだ全ての学校、クラス、学年で終わっているわけではないというお話が出たかと思いますが、タブレットを持ち帰っての接続テストをどんどんと進めていくというような動きはあるでしょうか。大体どれぐらいを目途に全ての学年、クラスで終わるとい見通しは現在あるのでしょうか。

小柳委員 関連して要望です。49校中14校はもう既に終わっているという話も聞きました。残りの学校については厳しい状況かとは思いますが、2学期の半ばぐらいには終わられるようにお願いします。

学校支援センター長 担当指導主事が分かりやすい資料を作って、学校に配布しまして、各学校はできるだけ早くそれを活用して家庭との接続ができるように説明会等を実施するという事を聞いていますので、期日はいつまでとは申せませんが、今まで予想していたよりも早い段階で家庭との接続テストの実施が完了する見通しではあります。

佐藤委員 はい、ありがとうございました。

教育長 それからこの夏休みの期間中に、学びの訓練を終えた7校では子どもたちが端末を家に持ち帰って、ドリルが中心になるかと思いますが、学習に活用していたということも進んではいます。しかし、どうしても今の時点では、端末を使ってこういう方針でこの学年はやっていきますということまでしてしまうと、対応ができない学校に無理をさせてしまうようなことが懸念されるものですから、2学期の終わりぐらいにはそういった方針が立てられるように統一をしていきたいと考えております。先ほど校長会の皆さんともお会いをしまして、ぜひそのことについてはご家庭から希望があった場合には柔軟に対応していただいたいということで依頼をしたところであります。

ただ、オンラインの授業もオンライン授業を行って全てが解決できるかといいますと、自宅に子どもさんがいるということになりますので、先ほど橋本委員がおっしゃったように高学年とか中学生とかであれば1人で留守番をしながら自宅でオンラインで授業を受けることも可能かと思いますが、低学年の場合にはオンラインで授業を受けたいというご要望があったとしても、それ

は保護者の方がご自宅に対応しながらということが条件になってきますので、結局その間保護者の方がお休みをしなければいけないということが出てくるかと思えます。

佐藤委員 ありがとうございました。

今回休校になった学校の保護者の方から「せめて朝の会だけでもオンラインで実施をしてほしかった。」という声を聞いたものですから、完璧なものを目指さなくてもどこか手が付けられるところから今後も含めて取り組んでいけたらと思っています。

教育長 ありがとうございます。

恐らく休校になった学校は、PCR検査ですとか、校内の消毒ですとか、先生方も手一杯だったことが想像できますので、できる限りそういったご意見があったことを踏まえて検討していきたいと思えます。

橋本委員、いかがでしょうか。

橋本委員 本件については、これで結構だと思います。

一つだけ、教育委員会の範疇を超えてしまうんですけども、土曜日の日本経済新聞の社説に、コロナからいかに守るかということで、不幸にしてコロナに感染してしまった、あるいは一斉休校になってしまった子どもの親御さんをどう支援するか。子ども1人で留守番させるわけにはいきませんから、そのためにはそういったときに弾力的に休めるような環境、あるいはケースによってはそれに所得の保障をするような対応、そういったものを含めて、パッケージでいろいろ子どもの対策を取らないといけない段階に来ているのではないかということ、教育委員会で議論になったという報告を教育長から市長に伝えていただきたいと思えます。

教育長 はい、私も橋本委員と同意見でありまして、学校の休校がどれだけ社会に影響を与えるかということ、去年のことを思い起こしてもう一度、社会全体で考えなくてはいけないということが今の時点では大切だと思っています。そのことを受けて、本日の対策本部会議のときに事前に申入れをしてありましたので、放課後に子どもさんを預けている職員については、上司から指示をしてでもぜひテレワーク、あるいは休暇を取って子どもさんのケアをできるようにして、放課後預かり事業の利用を自粛しながら子どもの生活を守ることに注意をしてほしいということ、総務部長から周知をしてもらいました。庁内において

はそのことを周知することとなりましたが、これは市役所だけでなく、市全体の事業者、社会全体にメッセージとして発信していきたい内容だと思っております。

ほかにはいかがでしょうか。

小柳委員 質問と要望です。2の(3)中学校について、アのただし書きに公式大会とありますが、12日までの間に新人戦の予選は入っているのでしょうか。

それから、(2)小学校のアに「在校時間を圧縮する」とありますが、日課上時間を圧縮すると、ほかに生活上何か影響が出ないかということ。3つ目は、(4)小中共通の対応のところで、給食についてです。学校では給食の配膳のときに結構リスクが高いのではないかと思います。担任の先生が盛り付けるといことも対策としてありましたが、具体的には個別食とか、弁当食とか、せめてこの期間中だけでもできないかという思いがあります。材料発注の関係もあるので難しいとは思いますが要望です。

学校支援センター長 1つ目の質問ですが、新人戦は12日までの中にありません。最も早いのは9月23日の陸上です。それから2つ目の休み時間を短縮した影響というのは、今日から実際始まったところですが、今日のところについて聞いていません。ただ、学校の対応を見ますと、一つの例ですけど、休み時間短縮のほかに40分授業にするとか、朝の活動、読書とかドリルをやめて20分カットをするなどの対応も含めて在校時間を圧縮に取り組んでいるところです。

小柳委員 分かりました。

教育長 給食の関係はどうか。

教育部長 配膳は各学校で工夫しながらという形ですかね。

高野センター長 しっかり把握はしていませんけども、低学年については専科の先生や管理職も含めてほかの先生方も配膳のお手伝いをして、子どもたちはできるだけ手を出さないというようなことをしているところがほとんどあります。

教育長 それは給食センターというより学校側が配慮してやってくれているということだと思いますが、今のご意見は給食の形態そのものについて。

小柳委員 配膳をすること自体がなくなり、感染リスクが減らせるのではないかと思います。

教育長 はい。分かりました。

そうですね、学校の感染状況によってはどのタイミングでそういうことがで

きるかをシミュレーションしておく必要があるかもしれないですね。

学校支援センター長 そうですね、昨年度のところでは給食の品数を減らすとか、それからできるだけ取り分けとかではないものを用意していただいてという時期もありました。ただ、準備の関係ですぐには当然できないことで時間は要したものがあります。

教育長 どういうふうに個別食、配膳の負担にならないようなものに変えるときはどういうタイミングということを考えていく必要があります。今でも、急に感染状況によって休校した場合に食材に影響が出てしまっているということもありまして、そのことも事務局の中では対策を考えなくてはいけないねということがありましたので、ご提案ということで検討していきたいと思います。

それでは本日お配りをしました8月27日付けの文部科学省からの「感染確認された場合の対応ガイドラインの送付について」をご覧をいただきたいと思っています。

今回議案にはしてありませんが、今後の対応ということでまた目を通していただいて参考にしていただければと思います。今回のポイントの中で最初に出てきますのが、別添のガイドラインの「1 学校で感染者が確認された場合の対応」と「2 濃厚接触者等の特定について」ということになります。これは通常特定のための調査は保健所が行いますが、ここでは緊急事態宣言対象地域、それからまん延防止等重点措置区域における学校においては、この保健所が行う作業が逼迫状況にあるということで、学校で一定程度こういうことを注意して調査をしてくださいというガイドラインになっています。今のところ、松本市の場合は、感染者が出た場合には保健所が調査をしてくれていますけれども、実はこのことはこの通知を待たずに保健所長から、特定する調査がなかなか大変だということで、一定程度保健所からこういうことを学校であらかじめまとめておいてほしいということのご相談が来ていますので、この文科省のガイドラインを基に保健所と相談をしまして、学校側で協力できることがあればお願いをしていくということになるかと思えます。

ただ、次の「3 出席停止の措置及び臨時休業の判断について」がございますが、特に4ページの【学級閉鎖】というところをご覧いただきますと、学級内で感染が広がっている可能性が高い場合、学級閉鎖を実施するというので、いくつか条件が示されています。例えば、同一学級において複数の感染者が判

明した時点で学級閉鎖を実施。そしてその下には、白丸で5日～7日を目安にするですとか、【学年閉鎖】や【学校全体の臨時休業】について書かれています。既に松本市教育委員会が策定しています学校運営ガイドラインでは、児童生徒、学校職員の陽性が確認された場合に当該校との接触のあり、なしということで、ありの場合にその学級の状況、それから子どもたちの活動の履歴ですとか、その地域の状況ですとか、そういったことを保健所と相談しながら、学年閉鎖にするか、あるいは全校休業にするかということ判断して柔軟に対応しています。

文科省のガイドラインでは、3ページにありましたが、前提は緊急事態宣言対象地域またはまん延防止等重点措置区域という条件がついていますが、松本の場合は、これよりも安全範囲をもう少し広めにとって安全対策をしているということが言えるかと思います。ですので、今回このようなガイドラインが文科省からは来ましたが、この部分については松本市のガイドラインを修正する必要はないのではないかと考えます。ですが、先ほど議論をしましたとおり、ICTを使ったオンライン授業ですとか、このことをどう判断していくかということは、2学期の活用状況を見ながらこの中に盛り込んでいくということも今後検討していきたいと思えます。

どうでしょうか。高野センター長から何かありましたらお願いします。

高野センター長 繰り返しになりますけども、松本市は今まで感染拡大防止のために本当に安全に安全を考えて対応をしてきたということで、従来どおりになるかと思えます。ICT活用につきましても状況を見ながらになると思えますが、私としては早くきちんとできるようになることを願うばかりであります。

教育長 塚田課長、先ほどの現状の調査も絡めていかがでしょうか。

塚田課長 先ほども保健所から連絡がありましたが、学校で最低限調べていただきたいことを保健所で洗い出しをして、現在、保健所長に見ていただいている状況でございます。ですので、それが整い次第全校に向けて、もしも感染者が出た場合はこういったことを注意して下調べをしていただきたいということは発信していきたいと思っております。

教育長 分かりました。このことに関してご質問ご意見ありましたらお願いいたします。

橋本委員 これまで早め、早めに我々のほうから対応をとってきていますので、教育長

がおっしゃったことでいいと思います。

次のポイントは、12歳以上のワクチン接種と教職員のワクチン接種率だと思えます。この辺が進んだ段階でこれまでの対応をいかに弾力的にできるか、今我々が考えている対応を修正する必要があるか出てくるかもしれないなと思えます。

教育長 ありがとうございます。

佐藤委員 どうでしょうか。

佐藤委員 私からは特にありません。

教育長 小柳委員はどうでしょうか。

小柳委員 保健所と協力体制をもって可能な限りやっていくということだと思いますが、学校が児童生徒に聞き取った内容を公的機関ではありますが、外部へ情報提供することになります。学校が知り得ている情報ですので留意していただきたいと思えます。

橋本委員 その点は、当然学校には学校医がどこの学校にもいますよね。保健所では手が回らなくて、それぞれの学校医の先生のお手伝いをお願いしないといけないことがあるかもしれないし、それぞれの学校医の先生との連携が重要になるのではないのでしょうか。

教育長 はい。おっしゃるとおりだと思います。この保健所の調査のことについても各学校医に通知をしながらその連携を取っていくというような配慮をしていきたいと思えます。

では、議案第2号についてはよろしいでしょうか。

それでは、この学校の対応については決定としまして、直ちに学校長に周知をしていきたいと思えます。

先ほどの公民館と図書館について部長に調整をしていただいたことについて報告をさせていただきます。

教育部長 先ほどの議論を踏まえまして、図書館長と中央公民館長に連絡をいたしました。各地区あるいは分館にも徹底をするようにすぐ通知するよう依頼をいたしましたので、明日からすぐにできることもありますし、あさって以降からということもあるかと思えますけれども、1日でも早く対応を徹底するようにということで指示しましたので、よろしく願いいたします。

教育長 その内容については、市のホームページでも周知をしていきたいと思えます。

佐藤委員 最後に1点、新聞報道でもありましたが、メールの誤送信について、危機管

理というところで、個人情報保護の徹底は、さらに厳密な扱いを、注意喚起をしていかなければいけない、指導をしていかなければならないと思っています。

教育長 はい。おっしゃるとおりであります。このことに関しまして、金曜日に学校長宛てに教育長名で今回の事案を振り返って必要なことということで通知をさせていただいております。今回のことでは本当にご心配をおかけしましたけれども、二度とこのようなことのないように対策をして、そしてそのことでご迷惑、ご心配をおかけした学校の保護者の皆さんにもこのような対応を取りましたということを知りたいと思います。

また、今回の詳細な調査をしましたので、この調査の内容に沿って改めてご報告、そして議会にも所管の経済文教委員会に報告していくこととなりますのでご承知いただきたいと思います。

佐藤委員 承知しました。

教育長 ありがとうございます。

橋本委員 この点について、私は学校現場が気の毒だなという思いがあって、コロナの陽性者が出たとなるとパニックになるわけですよ。だから、パニックになったときに正常な判断ができなくなるということをよく理解してもらわないといけない。学校で感染者が判明したときに、どういう手順で、何に注意してどうすればいいか、裏表1枚ぐらいに簡単なマニュアルのようなものと、それから注意すべきことは何なのかということをもとめたものを各学校に示してあげたほうがいいのではないかなという気がします。

教育長 ありがとうございます。

それを伺って思い出したんですけど、松本市の保育園、幼稚園の場合は危機管理マニュアルというのを独自に作って、例えば給食で子どもがアナフィラキシーを起こした場合には、そのフローに従って対応します。実際、私もこども部長だったときに一つの園でありましたけれども、このマニュアルに沿って必要なことを、ちゃんと役割分担をして対応したということがありましたので、今おっしゃられたことは一定のひな形のようなものは作ってお示しをしていくことが、コロナのことに関しては特に必要かと思っておりますので、そのような対策も考えていきたいと思っております。

佐藤委員 すみませんもう1点、個人情報が入った、例えば名前等が入ったものを送る

場合、メール本文ではなく添付ファイルにしてパスワードをかけるというのは行政では一般的に徹底されていることではないかと思えます。学校現場であってもメール送信に関してはそういったパスワードをかけてツール上から発信するということを、お忙しい中で大変だとは思いますが行政の中では当たり前であることを学校現場でも周知徹底をして、日常管理をしていく必要があるのではないかと考えています。

教育長 ありがとうございます。

今回起こってしまった案件で浮き上がってきた悩ましい課題としては、例えば、学校で緊急連絡を行う場合に各学校のPTAがPTAの費用を使ってメールシステムを選定して使われていて、そのシステムを利用して学校がいろいろな連絡をさせていただいているということで、学校独自にシステムを組んで保護者の皆さんに連絡をしているというものではないということがあります。PTAの皆さんが独自で作るということはいいと思いますが、学校の正式な連絡に活用させていただいて大切な休校の連絡などをさせていただいているということがどうなのかということは今事務局でも整理をしています。今、佐藤委員がおっしゃったような一定程度こういうルールでやっていきましょうということもそれぞれのシステムによってはできるところとできないところがあったりということもありまして、学校が正式な通知を行うものについてはPTAと協議をして何らかのルールですとか、改善をしていく必要があるのではないかと、この件を機会に話をしているところです。

佐藤委員 はい。ありがとうございます。よく分かりました。

教育長 よろしいでしょうか。

それでは、議案第2号につきましては以上とさせていただきます、対応について決定させていただきます。

教育政策課長 先ほどの報告第2号におきまして、小柳委員からご質問いただきました市の対応で、市有施設の中で時間短縮する日帰り入浴施設において飲食の場所がないかどうか、あるところに対応するかといったご質問でございますが、日帰り入浴施設の飲食については検討をしている途中ということで、まだ決定していないそうです。

それから、先ほどのイベントの対応について中止や延期できないものについては、感染防止対策を徹底した上で実施することをお願いするといったことで、

これに対してはリターンを求めるかといったところですがけれども、特に具体的にこうしてください、こういうものを提出してくださいということはお願いしていなくて、徹底をしていただくように依頼をするということだそうです。

以上です。

教育長 よろしいでしょうか。

それでは、戻りましてただいまから非公開としました議案第1号「松本市指定文化財の指定に係る諮問について【非公開】」をお願いいたします。

< 議案第1号 > 松本市指定文化財の指定に係る諮問について【非公開】

文化財課長 議案第1号「松本市指定文化財の指定に係る諮問について【非公開】」説明

教育長 それではご質問などありますでしょうか。

よろしいですか。

それではこの案件について次回の松本市文化財審議委員会に諮問をしていくことといたします。また答申になりましたら改めてよろしくお願いいたします。

橋本委員 すみません、一つだけ細かいところでいいですか。

令和3年5月に文化財審議委員会で、一度確認しているわけですよね。第2回の審議委員会に諮問して最終決定をするということですけど、5月には既に方向を確認しているので今日の教育委員会でこの案件が非公開になるという手順がよく分からないので、そこだけ説明していただけますか。

文化財課 はい、おっしゃる部分は確かにあります。基本的には諮問を持って文化財審議委員会にお諮りするということですので、その前に1回指定する方向について確認するというのは、確かに同じようなことを2回重ねるような形になってしまいます。これは指定したいという相談をするという段階でこれまで慣例的にこういった形で審議委員会に一度ご相談をさせていただいた上できちんと諮問するという手順を取ってきたものですからこのような形になっております。

教育長 この文化財のことについてはどうしても儀式的な感じになってしまうということは否めないのですが、これは公開案件だとまだ諮問の段階なのですが、報道されてしまうということがあって、国の文化財もそうなんですけど、諮問の段階では非公開でやるということは慣例になっているという実情だと思います。形式的といえれば形式的です。

橋本委員 本当は、この3年5月の指定する方向で調整をするときに公開でもいいので

はないかという気がしないでもないです。

教育長 文化財審議委員会は、公開でやってないですね。

文化財課長 そうですね、結果について概要を公開するという形で審議委員会そのものはこれまで公開でやってきた実績はございません。

教育長 ということは非公開なので実質それがイコール公開にはならないということだと思います。

原則、市の附属機関の会議というのは公開でということになっているので、文化財審議委員会が特別ということでしょうか。

文化財課長 そうですね、なかなか個人等の所蔵する文化財の指定に関わる部分が多いものですから、一律に公開というのは難しい部分があると思います。

橋本委員 だからそこが問題で、過去からこうやってきているからいいではなくて、もう少し公開のタイミングだとかについて意見が出ましたということで、委員会でも議論されてみたらどうですか。

文化財課長 今後の審議委員会でもそういった公開等の在り方につきましてはご意見受けまして相談してまいりたいと思います。

教育長 はい。では、他市の状況についても調べていただいて検討をお願いします。

文化財課長 承知しました。

教育長 それでは議案第1号につきましては承認したことといたします。

以上で第4回定例教育委員会を終了します。お疲れさまでした。

閉会宣言

伊佐治教育長は、令和3年度第4回松本市教育委員会を閉じる旨宣言した。

<午後6時10分閉会>

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

小澤 弥生

会 議 録 署 名 委 員

佐藤 佳子

小柳 廣幸